

伊達市議会だより

vol. 80

議会広報委員会
2025.11.27



「ほっとだて」ロゴデザイン 聖光学院高校美術部

Contents

第5回定例会議(9月)審議議案	P2~5
一般質問	P6~13
要望活動	P14
議会傍聴ほか	P15
お知らせ	P16

伊達市議会
ホームページ



<https://www.city.fukushima-date.lg.jp/site/gikai/>



秋のスポーツフェスタ in DATE2025
(ティラノサウルスレース)

第5回定例会議(9月)審議議案等と審議結果

会議期間22日間 9月4日～9月25日

【議案 38 件 条例制定 1 件 条例の一部改正 8 件 補正予算 8 件 決算認定 19 件 その他 2 件】

※審議議案等は伊達市議会ホームページに掲載していますのでご覧ください。



議案番号	件名	議決結果
議案第61号	伊達市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	原案可決
議案第62号	伊達市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第63号	伊達市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第64号	伊達市総合支所設置条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第65号	伊達市税特別措置条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第66号	伊達市水道事業の業務に従事する職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第67号	伊達市給水条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第68号	伊達市下水道条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第69号	伊達市放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第70号	伊達市こども遊び場設置条例の一部を改正する条例について	撤回承認
議案第71号	令和7年度伊達市一般会計補正予算(第4号)	原案可決
議案第72号	令和7年度伊達市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第73号	令和7年度伊達市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第74号	令和7年度伊達市介護保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第75号	令和7年度伊達市工業団地特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第76号	令和7年度伊達市水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第77号	令和7年度伊達市下水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第78号	令和6年度伊達市一般会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第79号	令和6年度伊達市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第80号	令和6年度伊達市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第81号	令和6年度伊達市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第82号	令和6年度伊達市工業団地特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第83号	令和6年度伊達市月舘宅地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第84号	令和6年度伊達市梁川財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第85号	令和6年度伊達市白根財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第86号	令和6年度伊達市山舟生財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第87号	令和6年度伊達市富野財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第88号	令和6年度伊達市五十沢財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定

議案番号	件名	議決結果
議案第89号	令和6年度伊達市富成財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第90号	令和6年度伊達市柱沢財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第91号	令和6年度伊達市上保原財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第92号	令和6年度伊達市金原田財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第93号	令和6年度伊達市掛田財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第94号	令和6年度伊達市大石財産区特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定
議案第95号	令和6年度伊達市水道事業会計決算認定について	原案認定
議案第96号	令和6年度伊達市下水道事業会計決算認定について	原案認定
議案第97号	工事請負変更契約の締結について	原案可決
議案第98号	令和7年度伊達市一般会計補正予算（第5号）	原案可決
議員提出議案 1件		
発議第2号	佐藤栄治議員に対する議員辞職勧告決議について	原案可決

※発議第2号は賛否が分かれ、その他の案件は全会一致で可決および認定されました。
※議案第70号は、執行部から撤回について依頼があり本会議で承認されました。

※議長（菅野喜明）は採決に加わらない ※会派名の省略 共産↓日本共産党伊達市議団	議決結果	賛成・反対	無派	未来政策研究会			創志会		伊達市民クラブ				春の風			フォーラム伊達・公明			共産		会派名 議員名		陳情名	
			渡邊尚人	大竹重範	佐藤眞也	半澤隆	佐藤栄治	安藤喜昭	柳田武志	大槻孝徳	池田順子	菊地邦夫	小野誠滋	島明美	河野裕之	中村正明	佐藤実	小嶋寛己	大條一郎	池田英世				近藤眞一
		賛成15・反対0	○	○	退席	退席	除斥	退席	○	○	欠席	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	賛成11○ 反対11●	佐藤栄治議員に対する議員辞職勧告決議について	発議第2号

第5回定例会議（9月）賛否一覽表

※議長（菅野喜明）は採決に加わらない
※会派名の省略 共産↓日本共産党伊達市議団

第5回定例会議（9月）賛否一覧表


●総括質疑議員名と質疑項目

1 河野 裕之
議案第70号
○伊達市こども遊び場設置条例の一部を改正する条例について
・料金の設定に関する根拠等

2 近藤 眞一
議案第71号
○令和7年度伊達市一般会計補正予算（第4号）
・債務負担行為補正（債務負担行為のスケジュール及び年度ごとの予算額等）

3 島 明美
議案第78号
○令和6年度伊達市一般会計歳入歳出決算認定について
・地域づくり支援事業（月館地域の主な事業費計の根拠等）
・商工業振興対策事業（キーテナント事業の詳細と相談実績等）

○令和6年度伊達市一般会計歳入歳出決算執行額が増加した理由について等



Pick up 1

イオンモール伊達の施設内に アンテナショップが設置されます！

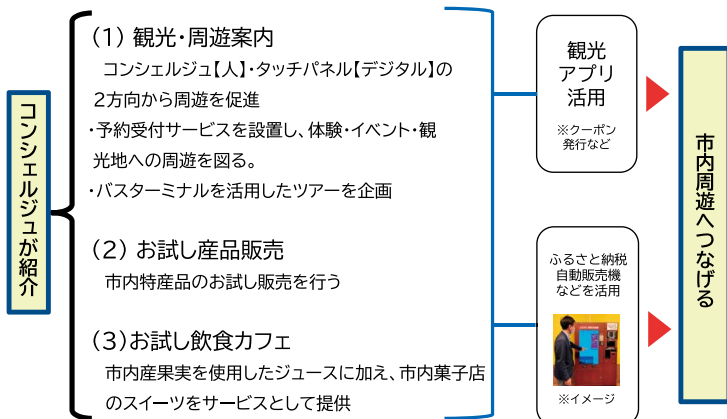
イオンモール伊達の施設内に、伊達市及び周辺自治体の地域
産品や観光情報を紹介するアンテナショップが設置されます。
このアンテナショップは、イオンモール伊達へ来訪される
方々に伊達市及び周辺自治体の魅力を発信し、観光や周遊につ
ながる「きっかけ」を提供することにより、交流人口を創出し観
光及び物産を振興することを目的としています。

アンテナシヨッ
プの面積は約22坪
(約72㎡)で、モー
ル2階中央フロア
地域共創ゾーンに
設置されます。

なお、このアン
テナシヨップ運営
のための人件費や
賃料等に係る債務
負担行為が議会の
議決により設定さ
れており、その金
額は令和8年度か
ら令和13年度の総
額で2億120万
7千円となってい
ます。

「イオンモール伊達」内 アンテナショップ
の設置について

周遊につなげるための仕組み



Pick up 2

議案の撤回を承認しました！

令和7年9月定例会議に市から提出された「議案第70号 伊
達市こども遊び場設置条例の一部を改正する条例について（※
以下、当該議案）」の撤回を承認しました。

当該議案には、市内3か所に設置された屋内型こども遊び場
を市外在住者が利用する場合の使用料徴収等に関する規定が盛
り込まれていましたが、「議案調査」や「総括質疑」において、複数
の議員からその内容を疑問視する声が上がっていました。

常任委員会における詳細審査においても、「使用料上限額の算
定根拠の曖昧さ」や「指定管理者制度を適用することの是非」「自
主企画（イベント）の開催を前提とした使用料が、あたかも通常
時の使用料であると誤解を生じさせるような構成」等について、
当該議案に対する厳しい指摘が相次ぎました。

このままでは委員会として当該議案を可決することが困難で
あるとの結論に達し、その旨を執行部（担当部）に伝達したとこ
ろ、定例会議最終日である9月25日に市長から当該議案の撤回
について申し出があり、議会はそれを承認しました。

「当該議案の否決」という選択肢も考えられましたが、議案の
撤回を承認することで、否決しなくても執行部に改善案を練り
直す機会を与えることができるため、議会としてこのような判
断に至りました。

執行部から提出された議案が、常任委員会への詳細審査付託
後に撤回される事例は極めて稀です。

Pick up **3**

公共サインの整備が進んでいます！

令和7年9月16日に開催された総務生活常任委員会において、市が進めている公共サイン統一整備事業の進捗状況等を確認しました。

市の公共施設等へのアクセス等を示す公共サインですが、旧5町の合併後もそのデザインが統一されていませんでした。そこで市は、「伊達市公共サイン統一整備計画」を策定し、デザインを統一した公共サインの整備を進めています。デザインを統一した公共サインの整備は人の流れを円滑に誘導・管理し、まちの一体感や魅力の向上を図ることを目的としているようです。

公共サインには「①案内サイン」「②歩行者誘導サイン」「③車両誘導サイン」「④記名サイン」があり、いずれも伊達市の市章のイメージカラーであるブルーとイエローを取り入れた親しみやすいデザインとなっています。

公共サインの中でもひと際大きく視認性が高い「車両誘導サイン」は、令和7年9月時点で市内15か所に設置されています。



設置されている車両誘導サイン
(保原町七丁目付近)

令和6年度

一般会計・特別会計決算を認定しました

■令和6年度決算の基金と市債

令和6年度末時点での基金(貯金)残高と市債(借金)残高についてお知らせします。

令和6年度末	基金残高(貯金)
一般会計	85億6,631万円
特別会計	8億9,280万円
合計	94億5,911万円

令和6年度末	市債残高(借金)
一般会計	391億2,468万円
水道事業	32億6,755万円
下水道事業	59億9,214万円
合計	483億8,437万円

財政調整基金

24億3,676万円
(25.8%)

地域創造基金

27億8,863万円
(29.5%)

公共施設維持整備基金

14億1,719万円
(15.0%)

教育施設整備基金

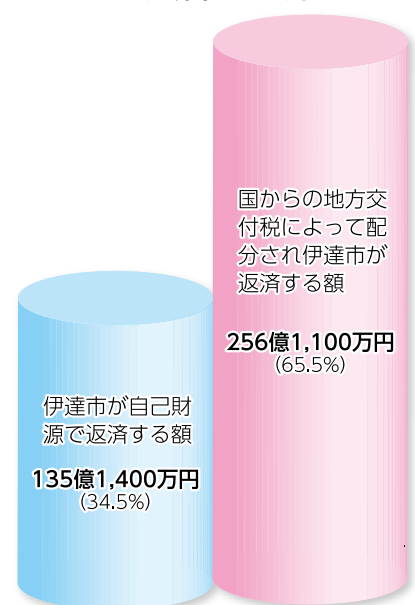
3億0,286万円(3.2%)

その他の基金

25億1,367万円
(26.6%)

基金(貯金)残高
94億5,911万円

一般会計の返済



※100万円未満四捨五入

一般会計市債(借金)残高
391億2,468万円

第5回定例会議(9月)

一般質問では15人の議員が登壇し、市政全般について論戦を展開しました。

問Q 一般質問 答A

一般質問議員と質問項目

■9月9日登壇

- 佐藤 実**
1. 統合公社発足後のこれまでの取り組み
2. 伊達市子ども遊び場の事前予約制度と今後
- 渡邊 尚人**
1. スポーツ振興
2. 暑さ・渇水対策
- 小嶋 寛己**
1. ごみに関する諸問題等
2. 自転車関連施策
- 島 明美**
1. 指定ごみ袋のばら売り導入によるごみ減量推進
2. 再生可能エネルギー発電事業と自然環境・安全対策の強化
3. 市の事業運営におけるガバナンスの確立
- 池田 英世**
1. RS肺炎予防
2. PCBの処理

■9月10日登壇

- 近藤 真一**
1. 多文化共生のまちづくりに関すること
2. 伊達市地域公共交通計画
3. 在宅医療・介護連携支援に関すること
4. バイオマス発電所に関すること
- 佐藤 真也**
1. 梁川バイオマスの問題
2. 旧梁川高校
3. 伊達市の農業の振興
- 佐藤 栄治**
1. 救急搬送時における時間短縮

■半澤 隆

1. 伊達市のコンピューターシステムの推移と県内13市の状況と今後の進め方
2. 「住みよさランキング2025」と伊達市第3次総合計画との関連性及び今後の進め方

■大槻 孝徳

1. 農作物有害鳥獣対策
2. 気象災害から農畜産業を守る対策
3. まちなかタクシー等の利便性向上

■9月11日登壇

■佐藤 清壽

1. 「危険な暑さ」エアコン設置補助制度の創設を
2. 資格確認書とマイナ保険証の併用を

■中村 正明

1. 三浦弥平杯ロードレース大会
2. 福医大、中学生向けプログラム普及
3. 改正自殺対策基本法
4. バイオマス発電

■河野 裕之

1. 登下校時の熱中症対策
2. 都市型スポーツを活かした拠点整備
3. ごみ出し困難世帯への支援

■大竹 重範

1. 須田市政の実績評価と次期市長選への出馬
2. 市町村によって異なる国民健康保険制度の現状と伊達市としての取り組み
3. 地域創生「都市計画」と農業「地域計画」における農地転用の問題

■柳田 武志

1. 防災・減災、防犯、安全安心なまちづくり
2. 伊達市の財政
3. シルバー人材センターへ依頼する除草作業

※一般質問の方の欄にQRコードが掲載されています。スマートフォンなどで読み取っていただきますと、録画映像にアクセスできますのでご利用ください。



佐藤 実

■より良いサービスの提供を



Q 9月1日の利用分から事前予約制度が導入されました。これまでの経過から今後について伺います。

A 事前予約制の導入は目的ですが、1つ目は週末や長期休業期間の定員超過を緩和、2つ目が当日受付からインターネット予約へと移行することで利用者の利便性の向上、3つ目が入場待ちの行列の解消と施設周辺の安全を確保、4つ目は市外利用者が多い現状を踏まえ、市内利用者の利用枠の確保を目的に実施をしているところです。

Q 事前予約制度の開始までの周知方法について伺います。

A 広報誌の8月号、9月号での案内、加えて1か月前の8月1日からホームページ上での周知を行っています。

Q 市が地域と一体となつた子育て支援は、とてもよいサービスが提供されています。子ども用の施設が無料で利用出来ることは最大の魅力です。それに向けて一生懸命努力していただきたいと思います。

A 今後子どもたちが思い切って遊べる施設をしつかり維持し、市民の皆さんと協働、協力しながら進めていきたいと思っています。

■ワンストップの窓口

Q 本年4月1日に一般社団法人伊達市振興公社が新たな一歩を踏み出しました。目指す姿は見えてきているか伺います。

A 公社内の横断的な連携事業の検討に着手し、旧公社間の資源を活用し、相乗効果を図り連携事業や新規事業の創出を検討しています。

Q 伊達市振興公社がスポーツツーリズム、そしてイベントを通じた観光と連動させるなど、ワンストップの窓口になる体制整備が図られれば良いと考えますが見解を伺います。

A スポーツを通じた誘客についてスポーツツーリズムというキーワードを持って、これから観光イベントを進めていきたいと思っています。



■急減するスポーツ少年団へ、更なる支援を



渡邊 尚人

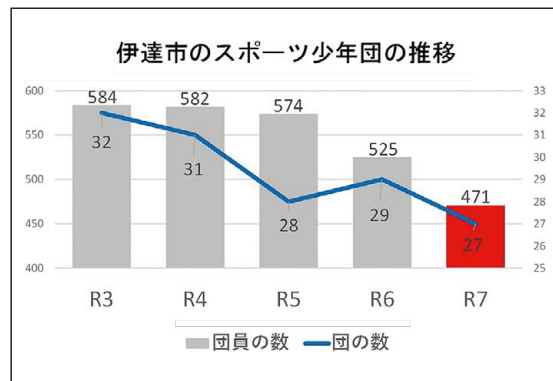
Q 本市にとって「スポーツ少年団」はどのような存在で、どのような役割を期待しているのかを伺います。

A スポーツを通して青少年の心と体を育て、スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する存在です。また、仲間との連帯や友情により協調性や創造性を育み、更にはスポーツによる地域の活性化を期待しています。

Q スポーツ少年団の数、団員数が急減しています。更なる支援として、指導者資格の取得や更新にかかる費用の補助、また、市所有のバスを貸出しできないか伺います。

A 指導者資格取得・更新補助については、他自治体の事例を調査研究し、指導者に対する支

援を検討します。バス貸出しは、公務外使用中の事故等の損害は保険適用外であることを踏まえ、今後調査研究していきます。



■暑さ・渇水対策について

Q 福島市、いわき市、相馬市を参考に高齢者世帯対象のエアコン設置補助事業の新設、また、福島市、喜多方市を参考に農業用井戸掘削単独事業を新設実施できないか伺います。

A 今後、国の交付金等が示され、補助事業が創設されれば、積極的に活用したいと考えています。また、市長会等を通じて国・県へ事業創設を要望していきます。



■自転車の安全利用の促進を



小嶋 寛己

Q 自転車専用ヘルメットの購入補助制度の必要性について市の見解を伺います。

A 道路交通法の改正により、令和5年4月1日から自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務となっています。県では、令和3年10月12日に「福島県自転車安全利用五則」が制定されており、この条例の第5条第1項では、「県民は、自転車の安全で適正な利用に関する理解を深め、家庭、職場、学校、地域等における自転車の安全で適正な利用のための取組を自主的かつ積極的に行うように努めなければならぬ」と規定されています。自転車用ヘルメットの購入

補助制度については、県内では1自治体のみが実施している状況であり、近隣自治体の動向等も踏まえ検討していきたいと考えています。

Q 保険加入やヘルメットの着用、左側通行など、自転車利用時には様々なルールがあります。そのようなルールを市内の小中学生にどのように教えているか伺います。

A 市内全ての小中学校で毎年、年度初めに交通安全教室を行っており、その中で、福島県自転車安全利用五則などを基に、自転車利用時の交通ルール、マナー等について指導しています。また、教職員からの指導だけでなく、警察署員などの外部講師を招き、自転車の安全な乗り方についての講話の機会もあり、自転車走行シミュレーターにより、運転時に起こり得る危険を体験することも行っています。さらには、年間を通し学級活動の時間などで、交通ルールやマナーの指導を行い、交通事故の防止に努めています。



■再生可能エネルギーと地域の安心



島 明美

Q 伊達市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例で、自然や暮らしは守られているのでしょうか。

A これまでに7件の届出があり、そのうち2件を同意しました。大きな問題はありませんが、「大雨のときに雨水があふれないか心配だ」といった声も市民の方から寄せられています。

Q 全国ではトラブルもあると聞きます。伊達市では、もっと安心できるような条例の改正を検討しているのでしょうか。

A 全国では、土砂崩れや景観の悪化、事業撤退後にパネルが放置されるといった事例が起きています。国もリサイクルの義務化を検討しており、伊達市もその動きを見ながら、市民の暮らしを守るために必要があれば条例を見直していきます。

■震災と除染と委託事業の監督責任

Q 中間貯蔵施設の法制化で、市の除染方針は変わったのですか。

A 伊達市は平成23年10月に「除染実施計画」を策定し、その後、平成24年1月に国の方針が全面的に施行されたため、市も同年8月に第2版へ改定し、国の方針に沿って除染を進めてきました。

Q 「心の除染」事業で、NPOへの支払いが計画と異なっていたと聞きます。市に監督責任はないのですか。また、再委託の取り扱いを今後改善する予定はありますか。

A 伊達市一般業務委託契約約款に確認規定がないため、委託業者と再委託先の契約内容や支払い額までは把握していません。当時の処理は約款に基づき適正に行われたと考えています。今後は、伊達市の再委託の状況や他自治体の事例を踏まえ、再委託ガイドライン等の策定の必要性について調査研究していきます。

Q 市政運営におけるガバナンスの確立（GIPDCAサイクル）について、今後の方針を伺います。

A GIPDCAサイクルを市政運営に根付かせることが非常に重要です。そのため行政評価推進本部を設置し、税金の効率的活用と持続可能な行政運営を進めます。



■RS肺炎予防を問う



池田 英世

Q RSウイルス感染症は肺炎が起きやすいといった認識をお持ちですか。

A RSウイルス感染症は一般の方もかかりますが、乳幼児が初めてかかった場合や高齢者で免疫等が弱っている方が感染しますと重症化する恐れがあり、注意が必要なウイルスであると考えています。

Q RSウイルス感染症に特効薬はありますか。

A RSウイルス感染症について特効薬はありません。治療は基本的な症状を和らげる対症療法を行います。

Q 市民への周知が大変だと思いますが、周知はされていますか。

A 感染がはやる時期に適時適切にホームページ等で広報できるように取り組んでいきます。

Q RSウイルスワクチンを妊婦に限定し接種が可能かと思いますが伺います。

A 今の段階としてワクチン接種ではなく基本的な感染防止対策、体力の向上、免疫力向上を市民にお知らせをしていきます。

■PCBの処理に迫る

Q PCBとはどのようなものか、またその危険性についてお示しください。

A PCB（ポリ塩化ビフェニル）は水に溶けず科学的に安定、電気絶縁性が高く主にコンデンサ用の絶縁油、工場の加熱と冷却の熱媒体などとして使われました。また環境中で分解されにくく、脂肪に溶けやすい性質から慢性的な摂取で体内に蓄積し健康被害が発生する危険性があります。

Q 低濃度PCB処理は2027年までですが、市内のPCB処理の進捗はどうですか。

A 県の依頼に基づき、保管者に対して適正な保管や処理に関するチラシを配布しながら、県に現状の報告等を行っています。今後の対応は県と連携し必要な対策等、周知を行って対応します。



■持続可能な医療・介護体制の構築を



近藤 眞一

Q 昨年10月に開設した伊達地方在宅医療・介護連携支援センターの概要、これまでの活動状況、今後の方針、施策等お示しください。

A 伊達地方在宅医療・介護連携支援センターは、在宅療養と介護の支援を必要とする方が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように高齢者支援を強化することを目的としています。地域の医療・介護資源と在宅療養・介護の課題把握、切れ目のない在宅療養と在宅介護の提供体制構築、推進等を行っています。昨年度の活動状況は、センター主催の会議や研修等の実施が93回、センター職員の会議等への参加が39回です。今後、地域包括ケアの深化・推進

を図り、医療と介護の連携を一層強化するための調整役として医療機関、介護施設、行政及び地域住民をつなぐ機能の充実に目指し、そのための施策として人材育成・多職種連携の推進や医療介護連携ツールの活用等を行っていきたいと考えています。

Q 今後、伊達市の医療体制をどのように持続可能にしていくか、市長の考えをお示しください。

A 切れ目のない在宅療養・在宅介護の連携強化を図っていくことは、市民が健康で健やかに暮らすために非常に重要なことだと思います。このような中で医療機関が非常に厳しい状況になっています。この状況を乗り切るために、国に対し、診療報酬のアップをしっかりと求めていくことを市長会でも進めているところです。また、診療を速やかに効率的に行うための方法、提案のありましたオンライン診療等々は在宅医療・介護支援センター、各病院との連携が必要となりますので、医療機関との相談をしっかりと進めたい上、どのような形に進めるかを検討していきたいと思っています。



■梁川バイオマス発電、教育長、市長に問う



佐藤 眞也

Q ログ社は焼却灰をトラックに野積みしています。目視で当局も市民団体も焼却灰の飛散を確認しています。20年間、住宅を含む周辺に飛散する恐れがあります。近くに認定こども園と小学校があります。子供たちの安心安全のため、教育長に伺います。

A 現段階では認定こども園や小学校への影響はないと考えていますが、今後とも関係部署と連携して、引き続き注視していきます。

Q 会津（大規模風力発電計画）の町村長と同じく、伊達市はバイオマス発電所の近くに認定こども園や小学校があり、反対しても法的な効力はないが、子供たちの安心安全の

観点から、「受け入れられない」と明言することは、住民に寄り添った市の姿勢ではないでしょうか。市長に伺います。

A 市民または周辺の皆様が大変認識していただき、この事態をしっかりと解決をしていかなければならないと認識しています。そのためには、事業者との協定にもとづき、市、県や国と連携して、できる限り市民が不安にならないような事業、発電がされるよう、監視していく体制が必要と考えます。

■伊達市の農業の振興について

Q 今年度の農業機械購入補助の申し込み者数と採用者数及び金額を伺います。

A 一般農業機械補助の申請者数29件、そのうち交付者数6件、交付決定総額は200万円です。スマート農業機械購入補助の申請者数は9件、交付者数は6件、交付決定総額は249万1410円です。

本定例会におきまして、一般機械購入補助の補正予算を上積みしています。予算額は600万円を計上しています。



■救急搬送時に於ける時間短縮について



佐藤 栄治

Q 伊達管内には3か所の救急指定病院がありますが、そこで対応出来ない場合は、どのような対応を行うのか伺います。

A 傷病者の救急搬送に当たりましては、消防法に基づき福島県が定めている傷病者の搬送及び受け入れ基準に基づきまして、福島市内の救急指定病院と伊達管内の救急指定病院とで相互受け入れを行うという協定を結んでおり、受け入れ可能な救急指定病院の調整を図ることになります。

Q 心疾患や脳疾患と

Q

心疾患や脳疾患と

者様は、伊達管内の救急指定病院で対応出来ない場合は、福島市内の救急指定病院に搬送されるという解釈

で宜しいのか伺います。

A それぞれの傷病者の方の病状に応じて県北地域であればどちらの病院のほうに調整を図るかという部分が定められています。

Q 以前の一般質問で、伊達地方消防組合救急隊の搬送完了まで48分程度という答弁を頂きましたが、救急搬送が48分かかっていることに関してもっと時間短縮する、それだけかかってもし方がないどちらの解釈でしょうか伺います。

A 最新の伊達地方消防組合の救急搬送の完了は平均53分47秒となっています。搬送時間については出来るだけ短いのが望ましいことであります。そこは伊達地方消防組合のほうでも、救急隊のほうでも十分努力をして、受け入れ可能な救急指定病院の調整を行なっているものと認識しています。



■コンピューターシステムの状況と今後について



半澤 隆

Q 伊達市の平成30年度から令和5年度までのコンピューターシステム費用平均金額は、約6億6759万9千円で、今回、県内同規模市と比較しても高くなっていますが見解を伺います。(資料参照)

A 本市のシステム整備の考え方として、災害の対策やセキュリティ強化のために、他市に先駆けてシステムのクラウド化を実施したり、仮想基盤の導入を進めてきたという経緯がありまして、本市では経費に計上している費用が、ほかの市では計上されないケースも一定程度あり、全体の経費については単純に費用比較することは困難かと考えています。

Q 伊達市と類似しているベンダーやシステムを採用している須賀川市との情報の共有を図ることが重要

なことではないかと思いますが見解を伺います。

A 同じシステムを利用する須賀川市と連携をしたり、福島県域というところでの共通化を図るということも含めて、課題解決や効率的な運用について調査研究を行いながら、一番のコストの検証や改善を継続的に取り組んでいきたいと考えています。

県内13市コンピューターシステム費用

No.	市 名	平均金額(千円)	最大金額(千円)	最小金額(千円)	R4人口	円/1人当たり
1	伊 達 市	667,599	716,266	600,089	57,513	11,608
2	福 島 市	829,498	937,100	723,204	271,996	3,050
3	会津若松市	328,025	365,431	315,706	114,793	2,858
4	郡 山 市	—	—	—	—	—
5	いわき市	—	—	—	—	—
6	白 河 市	—	—	—	—	—
7	須 賀 川 市	464,929	726,556	349,222	74,940	6,204
8	喜 多 方 市	272,071	302,964	241,868	45,538	5,975
9	相 馬 市	82,934	103,510	62,191	33,558	2,471
10	二本松市	275,160	295,224	254,881	52,446	5,247
11	田 村 市	150,311	224,965	96,430	34,619	4,342
12	南 相 馬 市	417,696	462,134	366,243	57,983	7,204
13	本 宮 市	159,408	182,654	139,853	30,066	5,302

注) ①平均金額は平成30年度から令和5年度までの決算金額 ③R4年6月1日現在、住民基本台帳より抜粋
②最大・最小金額は平成30年度から令和5年度までの決算金額 ④円/1人当たりは平均金額をR4人口で割ったもの



■気象災害から農畜産業を守る考えを問う



大槻 孝徳

Q 全国各地で、高温、渇水等により農畜産業に大きな被害が発生しています。

A 農畜産業における気象災害への対応については、現在、県補助事業であります産地生産力強化総合対策事業を活用していきたいと考えています。具体的には栽培用ハウスの導入や灌水の自動化施設と併せて整備する井戸の掘削費用の補助制度があります。本市としましては、今後とも国及び県の補助事業を最大限に活用することを基本として、気候変動の影響が顕著となる高温や渇水への対応に必要な支援策に

ついて引き続き要望を行っていきます。又、国等の補助事業については、まだ示されていませんので今後、情報の収集に努めていきます。

■まちなかタクシー等の利便性向上を問う

Q 市では利用しやすいデマンド交通への再編を目指すとしておりますが、見直しの取組経過と進捗状況について伺います。

A 利用しやすい運賃体系とする為、令和6年4月から一部のエリアを除き1乗降300円に運賃の改定を行っております。現在、事業主体や運行事業者と運行主体や予約窓口の一本化に向けた協議・調整を行い利用しやすい地域交通の実現に向けて取組んでいます。

■中学生のスクールバス利用方針を問う

Q 梁川小学校のスクールバスに、登校時に中学生も乗せて頂きたい要望が保護者からありますが、市の見解を伺います。

A 中学生の登校時の乗車安全確保がより一層効果的に図られるよう、保護者・学校・地域住民・関係団体・バス事業者等と協議、連携を図り、新年度からの実現に向けて検討していきます。



■「危険な暑さ」エアコン設置補助を



佐藤 清壽

Q 40度を超す猛暑でありました。伊達市の本年の5月1日から近日までの月別に、熱中症救急搬送人員数と傾向をお示し下さい。

A 救急搬送人数は、5月1人、6月10人、7月20人、8月8人、9月8日現在39人となっています。

年齢区分別では、10代以下が5人(12・8%)、20代1人(2・6%)、30代2人(5・1%)、40代4人(10・3%)、60代2人(5・1%)、70代13人(33・3%)、80代12人(30・8%)となっております。高齢者の方によく熱中症が発生している傾向です。

Q 熱中症救急搬送の約3割の方が住居で熱中症に疾患しています。近年の物価高騰から、電気

代の負担を軽減したく、エアコンを充分に使用されていないことも住居熱中症原因と指摘されています。低所得者、生活保護世帯に冬には灯油代として冬季加算があるように、エアコン電気代の負担増を軽減するため、酷暑の夏には電気代として夏季加算を創設できるように国に要望を出せないか伺います。

A つきましては、その世帯の状況や必要な事情に応じて、障害者加算、母子加算、冬季加算などを厚生労働大臣が定めています。夏季加算の国への要望につきましては、生活保護受給世帯の生活実態などを勘案しながら、今後検討していきます。

Q 経済的な理由でエアコンを設置できない高齢者世帯があります。エアコン設置の補助を求められた場合、本市の対応を、お示し下さい。

A 経済的な理由によりエアコンを設置できない高齢者世帯からの相談があった場合については、市内の地域包括支援センターや市の担当課において担当し、必要な支援につなげてまいりたいと考えています。



■三浦弥平杯ロードレース大会継続の意義

Q 今年の第46回三浦弥平杯ロードレース大会の開催中止については、大会実行委員長が大会の主管である梁川体育協会に諮りながら決定されたということですが、中止になった要因があるとすれば、その課題の解決に向けて協議し、大会の復活、実現に力を尽くしていただきたーと思います。言うまでもなく、梁川出身で県内初のオリンピックであるマラソンランナー弥平翁の功績を称え、長年、全国のランナーから愛されてきた大会であります。まちづくりにも市の発展にも大きな力を発揮してきました。

市長は、6月定例会一般質問の中で、「大会は大切な大会と認識していただきます。市としてできることは、しっかりと応援していきたい」



中村 正明

と答弁されています。改めて市長の考えを伺います。

A あくまでも、実行委員会の考え方に對して市として何ができるか、支援できるかという立場の上で、今後の対応を考えていきたいと思ひます。

■バイオマス発電

Q 住民の同意を得られぬまま国、県が事業者に許可したバイオマス発電。本格稼働の足踏み、燃料サンプルの不提出など課題山積、今後20年間何が起きるかわかりません。

市民の命と暮らしを守るための市長としてのリーダーシップについて伺います。

A 現在、ボイラーの点検を実施、終了後にメーカーから正式な引渡しがあるものと伺っています。それにより市がログ社と結んだ協定の効果が発揮され、立入調査、資料の提出、情報の公開を強く求めていきます。

住民説明会、データの公表についてと同様に考えています。国、県、そして市民の皆様と連携しながら精いっぱいできる限りのことをしていきます。



■登下校時の熱中症リスク軽減のために



河野 裕之

Q 登校時に使用するネッククーラーや冷感タオルを下校時においても冷たい状態で使用できるようにするため、小中学校の各クラスに小型冷凍庫を設置すべきであると考えます。低予算で大きな効果が見込める小型冷凍庫設置に関して市の認識を伺います。

A 登下校時のネッククーラー等の冷感グッズの使用については、各学校で柔軟に対応をしています。下校時の熱中症対策として、学校内にネッククーラー等を冷やす冷凍庫を設置している自治体の事例はありますが、本市においては児童生徒それぞれに通学方法等が異なることから登下校時の熱中症対策としての冷感グッズ使用について、一律に推奨する予定

はありません。この理由により、冷凍庫設置について現在のところは考えていないという状況です。

■スケートボードパークの検討を！

Q 本市周辺には多くのスキー場があるという立地優位性を活かし、スキー・スノーボードのオフシーズンの代替アクティビティの受け皿として、スケートボードパーク等の都市型スポーツ施設を整備すれば、文化・経済両面で波及効果が期待できると考えるが、その必要性や可能性をどう考えるか伺います。

A スケートボード等の都市型スポーツを含む若者が楽しめる場の充実が生活向上や定住促進にもつながることから先進事例の研究を進めていきます。また、伊達市のポテンシャルを活かした誘客には体験型観光としてスポーツを通じて誘客が重要になってくると思ひます。若者が何を必要としていて、これから望むものは何なのか、といったニーズを把握しながら、多くの人たちに伊達市に訪れてもらえる観光誘客、スポーツ振興というものを進めていく必要があると考えます。



■須田市政の実績と次期選挙への出馬を問う



大竹 重範

Q 須田市政二期三年
八カ月の取り組みと
二期目再選時に掲げた公
約（マニフェスト）であ
る、自然災害等「安全安心
の確保」、大型商業施設等
「雇用の場の確保」、ネウボ
ラ事業の展開等「子育て教
育の充実」、様々なイベン
ト等「健幸福祉のまちづく
り」、「イオンモール伊達」
開業に伴う交通渋滞対策、
「シビックプライドの醸成」
等への取組状況について伺
います。

A 「安全安心の確保」
は、国や県と連携を
図りながら、水害対策とし
て大型排水ポンプ車、防災
アプリ等の導入、地域防災
の強化、防災士等資格補助、
自主防災組織の支援等に取り
組みました。
「雇用の場の確保」は、
イオンモール伊達や保原新

工業団地を拠点に雇用拡大を
図っており、さらに女性若者の
定住促進に努めています。
「子育て教育の充実」は、ネ
ウボラ事業、保健福祉教育が一
体となった支援体制を強化。子
育て支援が若者定住の必須条件
となり、認定こども園等の整備
を行いました。

「健幸福祉のまちづくり」は、
歩くことを基本とした健幸ウォー
ク等イベントを開催した。地域医
療として、医師の承継支援や救
急医療体制の充実に努めました。
イオンモール伊達の交通渋滞
対策は、国や県公安委員会と協
議し、左右車線の整備、付加車
線の設置等を行いました。

「シビックプライドの醸成」
の取組は、シティプロモーション
（広報紙SNS等）を用いた
魅力発信等を行いました。今後
も市民が誇りを持って暮らせる
まちづくりを進めていきます。

Q これまでの実績評価を
鑑みて、次期市長選への
出馬について、市長の真意を伺
います。

A 引き続き、多くの課題
の解決に全身全霊を傾
け、思いを成し遂げるため、次
期伊達市長選挙に立候補、出馬
を表明します。



■災害時の避難について問う



柳田 武志

Q 災害発生時の避難
情報、避難所の開設、
避難所の収容状況などに
ついて市民にどのように知ら
せるか伺います。

A 避難所開設等の情
報については、防災
システム等の連携により、
リアルタイムにテレビ画面
にテロップとして流れる仕
組みとなっていますので、
いち早くテレビによる状況
把握が可能だと考えていま
す。また、収容状況等につ
いても、伊達市公式アプリ
の「だてなび」で避難所情
報をクリックしてもらうと
市の公式ホームページによ
り周知しますので、スマー
トフォンやタブレット端末
で確認ができます。同報系
防災行政無線でもちろん
流しますし、先ほどの「だ
てなび」を使いまして、聞

き逃しサービスで、もう一度聞
くことができます。伊達市役所、
もしくは各総合支所にお問合せ
いただければ、最新の情報も確
認することが可能です。また、
情報発信の協定締結をしてい
る民間事業所もありますので、
ネット、SNS等での情報発信
も実施していく考えです。

Q ペット同伴での避難、
ペットの同行避難につ
いて、伊達市ではどのように考
えているか伺います。

A ペットの同伴避難につ
いては、月館地域にある
屋内ゲートボール場すばく月
館を動物の同伴避難場所として
指定をしています。シートを引
いてパーティションを立てて区
切った中で、飼い主とペットが
一緒に同じ空間で避難生活をし
ていただきます。ペットの同行
避難、に関しては、市内の全て
の避難所で受入れが可能です。
ただし同一敷地ですが、人の避
難スペースと動物の避難スペー
スを別にして受け入れます。伊
達市のホームページで掲載はし
ていますが、出前講座等で地域
に出向く機会にも、周知を図り
たいと考えています。

「国道349号（伊達市・丸森町間）の整備促進について」要望書を提出しました

令和7年7月24日、福島県知事、福島県土木部長、福島県東北建設事務所長及び福島県議会議員に対し、同区間の整備促進のため、要望書を提出しました。主な内容は次のとおりです。

【要望内容】

本路線は、福島県と宮城県南部を結ぶ重要な幹線道路であり、これまで両県の交流や産業振興、物流、救急医療、災害時の緊急輸送など、両県の発展に大きな効果をもたらしてきました。

令和元年東日本台風により、両県に跨がる区間が冠水した本路線は、宮城県側において、山側斜面の崩落、路肩流出等が多数発生し、甚大な被害を受けたため、国土交通省による迅速な道路啓開作業が進められたものの、1か月以上に及ぶ長期間の通行止めとなり、再度災害防止の観点から「山側への別ルート」で国直轄権限代行事業による災害復旧事業に着手しました。

福島県側においては、県境部から兜橋の区間について、宮城県側との県境を跨ぐ一体的な整備を進めているところですが、兜橋から福島県側の冠水通行不能区間についても、宮城県に遅れ

ることなく計画などを速やかに実行し、洪水時にも通行可能となる整備が必要です。

県境を越えた交流促進と両県の更なる発展、活性化、利用者の安全な通行の確保を図るため、沿線住民の永年の悲願である国道349号（伊達市・丸森町間）の整備促進について、強く要望します。

国道349号整備要望箇所図



議長から福島県議会議員へ要望書を手渡し



議長から福島県東北建設事務所長へ要望書を手渡し



福島県土木部長へ要望書を手渡す菅野喜明議員（右から5人目）

議会だより「ほっとだて」に広告を掲載しませんか。

1回あたりの広告料

縦45ミリ×横87ミリ

..... 11,000円

縦45ミリ×横180ミリ

..... 20,000円

広告料は議会だより発行の財源になります。

お店、会社、イベント等の紹介に！

掲載については、議会事務局（電話575-1217）にお問い合わせください。

※このスペースは有料広告です。

伊達高校生の本会議傍聴と主権者教育

令和7年第5回定例会議の一般質問2日目（9月10日）に市内の伊達高校2年生33名と引率教諭3名が議会傍聴に訪れました。

当日は、市政について市議会議員から執行部への一般質問が行われており、高校生たちは配付された一般質問の通告内容を確認しながら、議場での質問と答弁に耳を傾けていました。

伊達高校では、伊達市との包括連携協定をもとに地域の活性化や課題の解決策を考える地域連携型授業を行っており、生徒たちが日頃から感じている様々な地域の課題について、今回の本会議傍聴により、解決に向けての新たな視点が得られたのではないのでしょうか。

選挙権年齢が18歳に引き下げられたことにより、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者教育が求められています。

このような中、伊達市議会では、若者や女性、会社員など多様な人材の地方議会への参画を促進し、議会を活性化することが緊要な課題と考え、市内高校生に民主主義や地方自治の重要性を感じてもらえるよう、議会傍聴だけでなく、今後は議員との意見交換会など、これからの伊達市を考える機会を設けていきます。



傍聴席にて一般質問を傍聴する伊達高校生

伊達市議会 政治倫理審査会 報告

令和7年6月12日の令和7年伊達市議会定例会第4回定例会議一般質問において、佐藤栄治議員が、事実と異なる発言を行ったことについて、議員から、伊達市議会議員政治倫理条例に規定する審査の請求がありました。これを受け、伊達市議会政治倫理審査会を設置し、令和7年7月2日から8月20日までに会議を5回開催し、審査しました。

審査会では、議会の講すべき措置として、佐藤栄治議員に対し、辞職を勧告することが適切と判断しました。

この結果により、9月25日の令和7年伊達市議会定例会第5回定例会議最終日において、議員提出議案「佐藤栄治議員に対する議員辞職勧告決議について」が上程され、賛成多数により可決されました。

伊達市議会議員 研修会を開催 しました

9月29日、議員研修会として、内田一夫氏（元全国都道府県議会議長会事務局次長）を講師としてお招きし、「議員のコンプライアンスについて」と題した研修を開催しました。

議員のコンプライアンスの基本は、法令順守と社会的使命を果たすことであり、自分自身を律することが政治倫理（コンプライアンスの核）となり、公正・公平性、透明性、高潔性の確保が議員の行動ルールであることなど学びました。

研修後の質疑では、議員から様々な質問が行われ、議員活動における規範について改めて認識しました。



議員逝去のお知らせ



令和7年9月28日、
病氣療養中でありまし
た池田順子議員がご逝
去されました。

平成30年5月の初当

選から伊達市議会議員2期7年余にわたり、地域
振興と地方自治の確立、伊達市勢の進展にご尽力
されました。市民の代表として常に市民の声に耳を
傾け、福祉向上のため献身的な努力を注がれ、伊
達市政の推進にその一生を捧げられました。
謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

伊達市議会議員一同



虚礼廃止に関するお知らせ

議員が選挙区内の人にお金や物を贈ることや有権者が寄付を求めることは、公職選挙法により禁止されています。また、年賀状（答礼のための自筆除く）やお歳暮等を出すことも禁止されています。市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

・ お祭りへの金品

・ 年賀状・暑中見舞い状

・ お歳暮・お中元

等

傍聴においでください

12月定例会議は11月27日(木)から12月16日(火)まで開催予定です。

【一般質問予定日：12月2日(火)・3日(水)・4日(木)】 ※質問者、質問項目は確定次第ホームページに掲載いたします。

編集後記

今年も大学生の皆さんが、インターンシップのため一般質問と各常任委員会審査を傍聴されました。インターンシップとは、学生が職業体験を通じて社会人としての働き方や自身の適性などを知るための体験型プログラムのことです。昨年夏、短期間でしたが、私も一市議会議員として地元高校生の職業体験受入れを行いました。学生のインターンシップや職業体験の受入れは、各議員の個別判断により実施していますので、ご希望の場合は、各議員へご相談ください。

学生に関する話題をもう一つ。別ページにも掲載されていますが、今年初めて主権者教育の一環として、伊達高校の生徒が一般質問を傍聴、また、伊達高校の生徒と伊達市議会議員が意見交換会を行いました。主権者教育とは、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくことです。少しずつ議会改革への取り組みが進められています。子どもを含めた若者に対しての貴重な経験と重要な教育は、労を惜しまず、協力していききたいと私は考えます。(渡邊)

議会広報委員会

委員長 小嶋 寛己
副委員長 渡辺 尚人
委員 河野 裕美
委員 島田 明志
委員 柳田 孝徳
委員 大槻 徳志

本紙は読みやすいUD（ユニバーサルデザイン）フォントを使用しています。